



昨年雛をプールで育てたカルガモ夫婦が今年も中庭に遊びに来てくれました

揺籃

柏崎小学校

第 2 8 9 号

令和3年6月1日

学校における働き方改革

教 頭 岩 田 正 行



柏崎小学校の児童数が令和三年度三八六名となりました。昨年度が四一七名でしたので、約三〇名減少したことになります。柏崎小学校の歴史を紐解くと二千人を超える児童数を誇り、県下一番の時期もあったと聞いています。我が国における少子化の状況は待たなしといったところです。柏崎市も同様で、人口減少問題は最優先課題と言えます。また、この二〇年余りで情報化社会が急速に進み、当校でも、三年生以上の児童は、五月中に家庭に「Pad(タブレット)」を持ち帰り、パソコンに向かいながら宿題をすることになります。この一人一台端末の取組(GIGAスクール構想)については、今後の学校だよりで紹介してまいります。まさに、予測不能な時代を迎えていることを実感しています。今までの考え方では解決できない社会になっているということです。ユーチューバーが将来の夢、ゲームでお金を稼ぐ、そんな言葉が現実になってきています。

私たち教職員は、子どもたちの成長を自分の生きがいにして、教育現場で日々より良い教育を提供しようと取り組んできました。子どものためなら早朝から深夜まで学校に残り、明日の準備を進めてきました。そういった教師が評価されてきたようにも思います。一方で、学校と家庭を行き来しているだけの教師は、社会を知らないと思われています。教師が自分の知っていることを教える、自分の考えている範囲で学びを創造しているようでは、これからの時代を担う子どもたちは本当に幸せになれるのか、夢を見つけ、実現できるのか、疑問です。

学校における働き方改革は、教育の最大の環境である教職員が、人間力を高め、子どもたちと向き合うことで、未来を切り拓く力を育むことを目指していると考えています。市では、昨年度から一八時から翌朝七時三〇分まで留守番電話を導入しました。また、当校を含め市内十校で七月から第三者による戸締り業務を導入し、十九時三〇分には、教職員全員が退勤、施錠することになりました。働く時間が短くなり、柏崎小学校では、どう対応するか、具体的な話し合いを進めています。学校でなければできないことを整理して重点的に教育活動を進めていくことを骨太に進めて参ります。皆様から一緒に考えていただければ幸いです。